

皮膚科臨床研修プログラム

研修の到達目標

プライマリケアに必要な皮膚の生理的・病的状態の観察の方法を学び、視診・触診の重要性を体験し、全身疾患の一部としての皮膚症状の診察の基本、ならびに皮膚科プライマリケアを修得させる。皮膚疾患を観察する際に、常に全身的疾患との関係を考える視点を築く。その中には組織検査のための皮膚生検技術、小皮膚外科手技の修得も含まれ、また皮膚病理学の基本を修得する。

皮膚科研修中に身につけるべき資質・能力 【技能・問題解決・解釈・態度】

皮膚病変の基本的病態（腫瘍性疾患、アレルギー疾患や感染性疾患などの炎症性疾患、先天的・遺伝的異常など）の鑑別に有用な正しい問診ができる。

1. 基本的な皮膚所見（発疹学的所見）を記載することができる。
2. 病変皮膚の問題点を的確に判断し、疑診ならびに鑑別診断を列挙することができる。
3. 全身所見の問題点を挙げ、皮膚病変との関連性を考察することができる。
4. 皮膚病変の重症度を判断し、適切な初期治療を行うことができる。
5. チーム医療の一員として、関係他科へのコンサルテーションを的確に行える。
6. 患者・および家族の皮膚疾患に特有な不安や希望に傾聴し、良好なコミュニケーションをとることができる。

研修方略

On the job training (ON-JT)

必須事項：代表的な皮膚疾患（湿疹、蕁麻疹、薬疹及び皮膚感染症等）の診断と鑑別方法を学ぶ。皮膚縫合法（表皮縫合、真皮縫合）と皮膚生検術を学ぶ。各種外用剤・内服薬、創傷被覆剤の使用方法を学ぶ。

外来診療：外来診察見学と合わせて問診、皮膚所見の記載、診断にあたる。実際の皮膚科に特有な診断法（発疹学的診断、真菌検査、パッチテスト・プリックテストなどの皮膚アレルギー検査など）、治療法（外用療法や内服療法、皮膚腫瘍凍結療法など）を指導医とともに行う。

病棟診療：皮膚科入院患者の診断へのステップと経過観察のために必要な臨床所見、検査所見を理解し、治療・検査計画を立案する。

業務：手術（月、火の午後）では、助手・あるいは術者として参加し、皮膚切開縫合術、腫瘍切除術、皮膚生検術などの基本的皮膚外科手技を学ぶ。

Off the job training (Off-JT)

- 1 適切な症例があった場合、学会（日本皮膚科地方会など）で症例報告を行う。
- 2 スキルアップのための講習会、勉強会に積極的に参加する。

長期研修または選択期間を用いた 2 回目の研修時における研修内容：

研修医と相談の上、新たな研修目標を設定し、目標達成のための研修方略を追加する。

週間予定表

曜日	午前	午後
月	外来診療	手術、病棟診療
火	外来診療	手術、病棟診療
水	外来診療	病棟診療
木	外来診療	病棟診療、褥瘡回診
金	外来診療	病棟診療

評価

研修中の評価（形成的評価とフィードバック）

- 1 週間予定表に示した On-JT のさまざまな経験の場で、SBO の達成状況について、指導医、上級医、指導者による形成的評価を行う
- 2 OMP、一日の振り返り、SEA が中心的なフィードバックの機会となるが、それ以外の場でも、適宜指導医、上級医、指導者による形成的評価が行われる（指導医による診療録のチェックなど）。
- 3 一日の振り返り、SEA は、研修医自身の振り返り（省察）の場としても用いる。

研修後の評価

研修医に対する形成的評価

- 1 研修終了後に PG-EPOC に研修医が入力した自己評価を元に、指導医、上級医が評価する。メディカルスタッフは現場評価表を用いて評価を記載する。
- 2 1.の評価表を集約して、責任指導医が PG-EPOC で研修医評価表Ⅰ、Ⅱ、Ⅲに達成度評価を記載する。
- 3 経験すべき症候、疾病・病態については、研修中に作成された病歴要約について、指導医は考察も含めてその内容を確認し、十分な経験がなされたと判断した場合は、PG-EPOC で承認をする。内容が不十分な場合は修正を求める。
- 4 1-3 はプログラム責任者に提出され、定期的な形成的評価とフィードバックに役立てられる。
- 5 研修終了時に研修医は自己評価表に記入する。これもプログラム責任者に提出され、形成的評価とフィードバックに役立てられる。

指導医、研修プログラムに対する形成的評価

- 1 研修終了後に、研修医は PG-EPOC 上で、メディカルスタッフは指導医に対する評価表を用いて評価を記入する。
- 2 1.はプログラム責任者に提出され、臨床研修管理委員会などの場でフィードバックが行われ、指導医の指導状況と研修プログラムの改善のために活用される。

総括的評価

皮膚科研修では、総括的評価は行われない。

2 年間の研修修了時に臨床研修管理委員会が修了判定の総括的評価を行うが、皮膚科研修の形成的評価もその材料となる。

皮膚科が学修の場として適している、経験すべき症候、経験すべき疾病・病態

経験すべき症候

発疹、熱傷・外傷

指導体制

研修責任者

竹上 與志昌

指導医

竹上 與志昌

指導者

すべての指導者が、研修中のさまざまな場面で指導にあたる（指導者名簿参照）